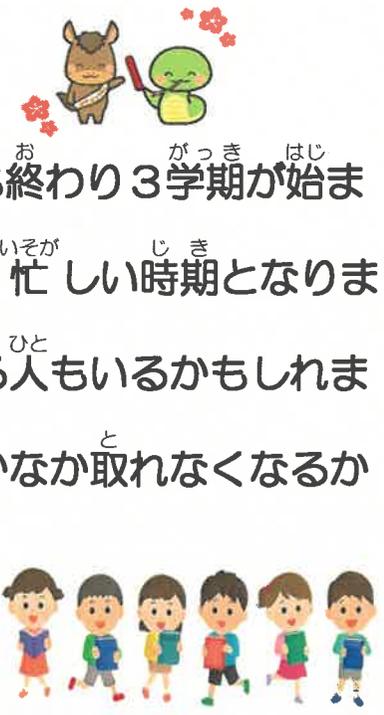


2025年「巳年」から2026年「午年」と
 新しい年が変わり、また楽しく過ごした冬休みも終わり3学期が始まりました。3学期は大きなイベントが続く、とても忙しい時期となります。あっという間に一日一日が過ぎていくと感じる人もいません。そして、今までと違って本を読む時間もなかなか取れなくなるかもしれませんが、今年も図書室でたくさんの本に、
 出会ってほしいと思います。



~図書委員会からののお知らせ!!~

~今月のスタンプウィークは~

1月23日(金)~1月30日(金)です。

スタンプを集めて

しおりやもう一冊券をもらおう!



図書室からののお知らせ!!

今月、図書室では冬やお正月、今年の干支「午(馬)」に関する本を、
 図書室の入り口にたくさん展示してあります。

また、奥には「先生のおすすめ本」と「本の紹介カード」を
 一緒に展示しています。何度も読んで知っている本も、
 先生の紹介カードを読んだ後にもう一度読んでみると、また少し違っ

お話が見えてくるかもしれません。
 はじめて知る本は、今後の自分のお気に入りの一冊になってほしいな
 と思います。ぜひ図書室に来て読んでください。そして、すてきな本に
 出会ってくださいね。

「本はともだち号」からののお知らせです

借りた本の返却日を守りましょう!
 返却する本は図書室ではなく、**各教室に置いてある**、
「本はともだち号 本返却箱」に入れてくださいね。

☆次の「本はともだち号」は2月12日(木)です。





みんなの『家読カード』を
少し紹介します!!

『ゲーム&クリエイターパソコンのひみつ』 入澤 宣幸//作
パソコンのなかみやパソコンの工場について知れておもしろいので、ぜひ読んでみてください。(3年 男子)

『くったのんだわらった』 内田 莉紗子//作
ひばりが、たまごをまもるためにいろいろとおおかみのおねがいごとをきいて、たまごをまもったのがすごい。(2年 男子)

『ねずみのすもう』 おざわ としお//作
さいしょに大きいねずみがかったのに、もちをたべたから、小さいねずみがかってよかった。(1年 男子)

『ふゆのよるのおくりもの』 芭蕉 みどり//作
かざりつけをしているところが、たのしい。(2年 女子)

『中村哲物語』 松島 恵利子//作
中村哲さんは、いろいろな人をたすけていたり、こまった人をはげましていました。たった一人で1億人の人を助けたので、すごいと思いました。(3年 女子)

『しんぱいせんせい』 北川 チハル//作
せいとがしょんぼりしているときに声をかけて、えがおにしているのがいいと思った。(4年 女子)

『アスリートの魂』 高岩 ヨシヒロ//作
このお話を読み、最後まであきらめないでいたり、自分を信じるのが大切ということがわかりました。私もスポーツをしているので、試合で負けそうになったときに、このお話を思い出して、最後まであきらめないでほしいと思いました。(6年 女子)

『みにくいあひるのこ』//作
さいしょはひとりぼっちだったけど、さいごはきれいなとりになれてよかった。(1年 男子)

『ぼくがバイオリンを弾く理由』 西村 すぐり//作
この本は、バイオリンを通して主人公の気持ちが伝わってくるお話です。音楽が心の支えになることがわかり、考えさせられました。音楽が心を支えてくれることが伝わる本でした。(5年 女子)

『つきーとカーコのたからもの』 おくはら ゆめ//作
この本を読んで感じたことは、自分にとってみじかであたりまえな存在のものや、人のように自分の宝物はすぐそばにあるということを感じました。(6年 女子)

『とっておきの名探偵』 杉山 亮//作
自分では気づけなかったけれど、最初の方にもヒントがあるとわかって、気づけてすごいと思いました。(5年 男子)

『科学探偵VS.学校の七不思議』 田中 智章//作
ぼくは、この本を読んで不思議なげんしようもなにか科学の理由があって起きていると思えました。たとえば、長時間一定の物を見て他の場所を見ると起こる「ざんそう」や、光が反しゃしてナニカに見えるげんしようなどがありました。(4年 男子)

『きんのことり』 あまん きみこ//作
最初きたかぜの子は、だれからも必要とされていなくてしょんぼりしていたけど、とつぜんかぜの子を必要としているいちょうの木ができてかぜの子は、いい気持ちでいちょうの葉と空へ飛んで行く所に感動しました。(6年 男子)

『カッコイイってどういうこと?』 齋藤 孝//作
あきらめない気持ち、自信、人をねたまない心、職人気質ということなどを大事にしようと思いました。例えば、野球で負けているとき、自信をもとうと思いました。(4年 男子)

『母と妹への手紙』 いわさ みきそう//作
せんそうで、母と妹をなくしてしまったことが、とてもかわいそうでした。でも、せんそう中に母が自分たちのために食べものをもって来てくれたところが、やさしいと思いました。これからは、ぜったいにせんそうがおこらないようにねがいます。(2年 女子)

『かいじゅうたちのいるところ』
モーリス・センダック//作
マックスはぬいぐるみをきると、いたずらをしはじめたときがびっくりしました。おかあさんがおこったときも、びっくりしました。マックスは、「おまえをたべちゃうぞ」というのがほんとうだとおもいました。しんしつにきがはえだしたのも、びっくりしました。ほんとうはしんしつなのにきょうりゅうができてびっくりしました。(1年 女子)

『からっぽになったキャンディのはこのおはなし』
大久保 雨咲//作
おくりものをあけると、あける人がわくわくすると思っていたけど、箱のなかみもどんな人にとどいたのかなと、わくわくするんだなと思いました。(4年 女子)

『アンナの赤いオーバー』
ハリエット・ジーフェルト//作
これは、戦争でお店がなくなって一つ一つオーバーの材料を集めていくお話で、冬からはじまり、1年かけてオーバーを完成させた感動のお話でした。第37回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書にもえらばれていた本なので、感想がすごく書きやすかったです。とくに一年をかけて、オーバーを作っていくアンナとお母さんに感動しました。(5年 女子)

『にげだした王さま』 宮下 すずか//作
王の文字をおいにかけてまどにがんばってのぼろうとしてたほかの文字の雨の文字が、かくすうがおおいからおもくてのぼれないから、やさしい玉が雨の下をおしてくれたからのぼれたのがいいとおもいました。まどにのぼろうとして雨を下からおさえていたけど、とちゅうで玉の一ばんだいじなてんがなくなって王のもじになりかけたのがおもしろかったです。王がきたなくなったからあらおうとして王が一ばん上の文字がなくなって、土の文字になったのがおもしろかったです。(1年 女子)

『ツキノワグマ』 宮崎 学//作
ツキノワグマは、足のうらが肉球でできているから足音が聞こえないのがすごいと思いました。(5年 男子)

『ひろしまのピカ』 丸木 俊//作
むかしはせんそうがあつていろんなところに空しゅうなどがあつてかわいそうだなとおもった。にどと、せんそうがおきないことをねがいたい。(3年 男子)

毎月23日は『ななお家読の日』

『家読』とは?
家族で同じ本を読み、読書を楽しんだ後は本を読んで感じたことを家族で話し合い、みんなで楽しく読書をする日です。
本を読んだ感想や好きな場面、イラストなどを『家読ノート』にいろいろ自由に書いてみよう。

今月の家読は
1月23日です!!

